

その人らしさの尊重とチーム医療のコーディネートを重視し、患者さんひとり一人に行き届いた看護を提供

健康増進と疾病予防、健康の回復、苦痛の緩和という看護部の基本的責任を果たすため、人々を全人的にとらえ、看護の専門性をもって主体的に働きかけます。その具体化のために、患者中心性、安全性、有効性、適切性、効率性、公平性を活動方針としています。

看護の質の向上

継続的で一貫性のある看護を目指し、看護の標準化を図るとともに、いかなる場面でも看護の基本的役割が発揮できるジェネラリストの育成を図っています。また、安全で質の高い看護を提供するため、専門的な活動を推進するスペシャリストの確保、育成も行っていきます。高度な専門性を必要とする領域については、その分野に特化した技術・知識を有した専任看護師を配置し、以下の分野で活躍中です。

■「がん看護」

がんサポートチームでの緩和ケアのコンサルテーション活動、化学療法や放射線療法を中心としたがん治療の看護を現場のエキスパートナースとともに行っていきます。

■「感染管理」

専任の感染対策者および院内感染対策チーム（ICT）の一員として、感染対策を組織横断的に行っています。

■「退院支援」

患者さんが退院後も安心して療養継続ができるよう、どのような医療管理・看護が必要かを考え、患者さんの自己決定支援ができるよう、必要な教育・コンサルテーションを行っています。

■「褥瘡対策」

褥瘡専従管理者として、褥瘡対策チームの中心的役割を担い、部門の壁を越えた横断的な活動を展開しています。

■「治験コーディネーター」

治験患者用クリニカルパスを作成し、ケアの実践と治験の円滑な実施に努める中、契約治験件数も増加の傾向にあります。

■「看護システム」

電子カルテシステムの中で、患者さんの療養生活支援に必要な情報を集積、整理するとともに、情報をチームでタイムリーに共有し、看護業務の標準化・効率化と、誤認防止など医療安全の向上を推進しています。

また、特定の看護分野について豊富な経験と高度な知識を持った認定看護師を配置しています。「感染管理」「皮膚・排泄ケア（WOC看護）」「がん化学療法」「集中ケア」「糖尿病看護」「透析看護」「新生児集中ケア」「手術看護」「緩和ケア」「摂食・嚥下障害看護」「がん放射線療法看護」の11分野。



看護師の養成

本学人間健康科学科看護学専攻をはじめ、様々な養成課程での臨床実習を積極的に受け入れ、学生が安全かつ効果的に実習できる環境を整えています。臨床では、看護実践を通して学生の持つ課題について、個々の患者さんに適した看護ケア提供が学べるよう、実習指導者を中心に支援を行っています。

看護師の研修

看護師として生涯成長していくためのマンガローブ型キャリアパスを構築し、ジェネラリストとして足腰を鍛えるための卒業後3年間の段階的研修や、ひとり一人の目標に焦点をあてたレベルアップ研修、エキスパート研修などを準備しています。また、独自のクリニカルリーダー認定制度を有し、キャリアサポートに活かしています。

働きやすい職場づくり

ボトムアップ型の組織づくり、超過勤務の縮減、有給休暇、夏季休暇の取得推進、交替制勤務の検討など、看護師の働きやすい環境を整え、離職防止に努めています。

看護部理念

1. 私たちは、常に患者の立場に立ち、その信条、人格、生活、権利を尊重します。
2. 私たちは、患者に必要な情報の入手を助け、患者の意思決定を支援します。
3. 私たちは、可能な限り高い水準の看護を提供するために、個人としてまた、組織として継続学習を推進します。
4. 私たちは、看護実践の水準を高める研究活動を推進し、卓越した診療・教育・研究を行う本院の使命の達成のために協働して取り組みます。
5. 私たちは、チーム医療の一員として、他部門と信頼関係に基づいた協働を図り、病院運営に積極的に参画します。
6. 私たちは、看護活動を通して国民の福祉に貢献します。
7. 私たちは、社会的地位の向上のために、積極的に専門職としての活動を行います。